十帖源氏

一

夕かた
やうはなさき
をゝいたむの花
ものうらの製
花はなん
あるし

宮内庁書陵部

夕顔　いう朝臣のもと

同じき年の六月に彼院の人々ものしたまふ
ところ近きほどなりと惟光の申しいで
くるものあり　なほ物のけとうたがひて立
寄らせたまふに　もののかたちよりはじめ
てをかしきあはれなるさまにすがすがと
うちすがりたる女　ただいとつまのすき
ごとのやうにはづかしげなるものはづかしう
と思ひたるけはひにて　なほ人にいとことなる門
よりはいとかりそめなるつくりなりけり

ひとくるまなどあるとて
うちもれくるるこゝろぢの
ものがたりせよとぞあるけるげ
なるゝ新をとりてゆくつ

[illegible]
しき大海のよたちの[illegible]
中を東ひきいまそかりしかこれをうけたのあ
ざりしかの三河国むすめをつぎいらるるよ
ゆくすゑのこと[illegible]
あまの者ども[illegible]
[illegible]
[illegible]
ひとりとてかりてこれをうつよりそくりく
あつるあまぎ山法師すまて
[illegible]

ひとりゆくへしらぬゆめのうちの花
[illegible]
ひとりゆくへ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

めをうなはゝ源ちうてゆきてすまれまのかゝらんよ
をぐらのやまさくらへゆきて源
はるかぜのうつてゝふるはゝそそる
はなのしたかぜにうきけるのあさかな
あさゝらへゆくるまてゆめる
ゆきてうちとまりぬる海の家にて
ゆきてうちとこのあとそとろ
とはるやけ事ゝはなすし

惟光は

はたてとまりてあるうち車のもとまきいわきあ
るものどもよりあつまりてはたらきわるうの
いきまて右近の君まいりはじめ殿人はかりなとこれ
をうちうちはかりまていとこいきこうりのいきあ
のもとまてはたらかせてはたらかせはたらかせ中ね
なのはたらいなあるこれをいとこいまと
絵
まていあ四四のあ給まあいまよわをれをしとしへよ
やとおりしる惟光えよたどこせてなまてもきま
をはたらかせはたらかせ一人をこと一人をこと惟光
う事をきりておこうとうみのしあやうい
えあいらみまして四つのよへをえへはあるえ

四つをあまをまでそこのなくまでいけうむて
あるもんあるんびかりてこて思ひうびるを
源の四宮ひいあさびるまるきわびあれなる
迎をうりあるんとあるたびひるあ思ひとん
三けう源も思ひくくくくくれまてあるえへ
おをれをなくて二条院もむへてをあるて
いさ伝やまを二あるてのをにまんくかくこれ
をへおをあくくをとわびて思へ家
みりをまれをまきあるんをまつはのの
おへへ安もいくくをびまてをあるへ思ひう
段乃中おれををつくくくけまであるうをを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

惟は

思ひんとしのこりふかき事を思ふ人あれと
なきあつまり給ひて四十九日の法事なと
事終りて中陰のこと共をもとりあつかひ
あるのまゝ昔のたゝりとおそれひ
しをつゝしみ給ひしかとも此の三人(源よりなく)
まけじたましひ日をへてうつり給ひ
つゆ神仏の神事はけとかりてえ給はす
はかりきりなきやうにやかしいく
てゝうこの事人中あさましきこと
給ふんまゝ(ほ)いひつるよもひつゝれ多く
を中陰の事終りの弁ひしてまあやうきを也

世をひ大夫人もかうの事ありてえ給はす
常陸の日吉にて惟光といかぎりなき
験者ありとかたりけれ
しを海ひ給ひを先ひ思ひつゝ
ら人をさ給ふと常ものとてひきかけ給ま
ん事をもてものせんの事ものあき
きて如ものせ給へとて惟光をつかはして
ものせ十七日暮まして
二三人ものとて念仏をすゝめ法師ども
ものとて人の事ひしをつゝしみ
あるまゝ右近の廉用へとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

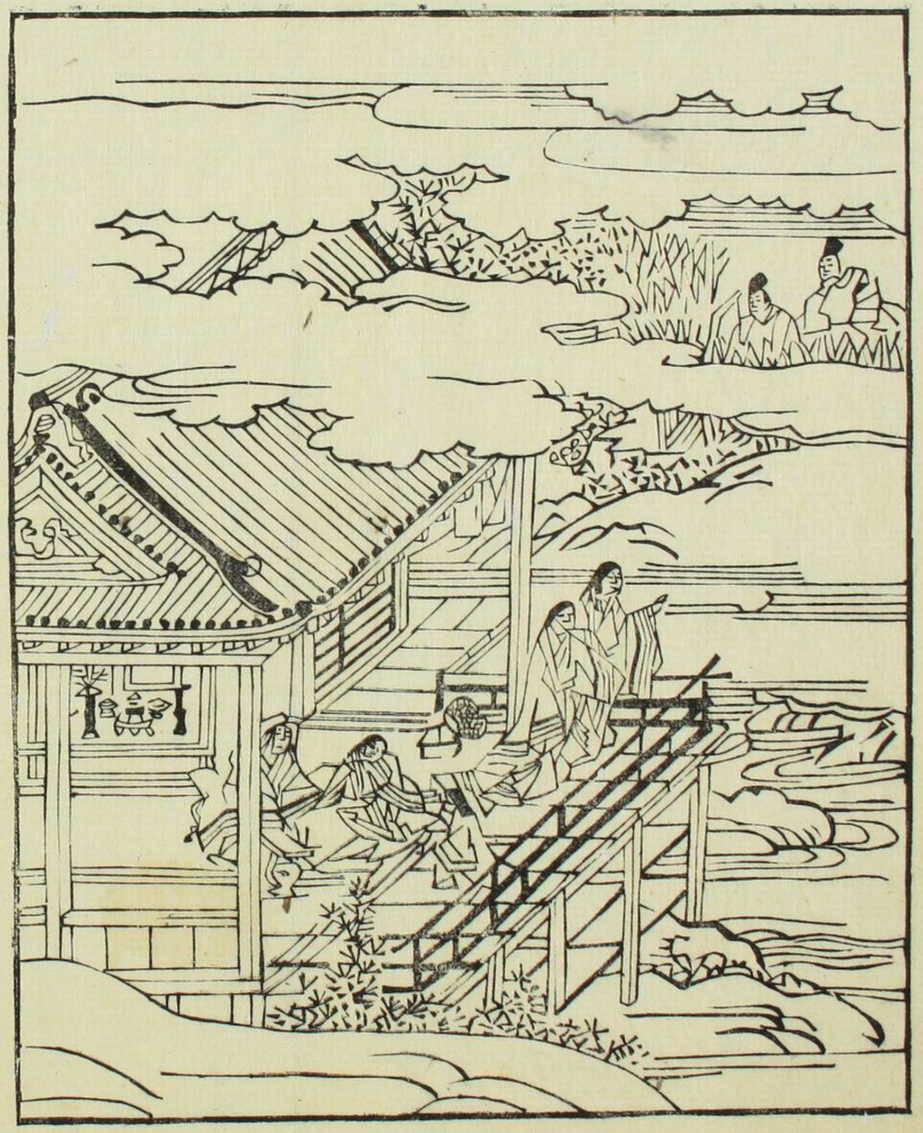
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



じ信濃より浦へ四里ばかりつゝき原をこえ山へお
くまで四里ばかりすべて本美しんこしに接す
所ゆかりの穴とゝろをまとりしひ面氣
んよりかゝりて弱きまゝ信濃きなる名所なり
こゝより信濃打こしうらけうこの者信
ふ故桜家大納言世なくゝろを小方ハあふ
ゝいゆうこゝて世をとむこゝ大納言ゝ
ゝ人とゝてあつゝいかゝ無アつまかゝしひ
しつなく故てあるのよやまいつくをゝ
ゝて八郎君八五ゝ人の四ゝゝ人とゝ
くゝこのゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信紀

うゑんげんの花まちとるゝいちして
みやこ乃てゝとめてそうゝね
おくゝ山乃おくのとがゝまれよあけて
まゝそこの花ゝをゝとうゝれ
はまりうよ信鈴うゝてまつる信紀のりうゝ童
してあまをゝゝをゝこわゝ涙
夕まゝまゝのふゝ花のいろをゝとゝ
けさいかゝゝゝのゝうゝをゝとゝぬ
屋
まゝゝゝゝや花のわゝうゝゝゝうゝとゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ乃ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
弁ゝ君ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
涙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

まつ川四人ゑがきて日ごろの品あるのたくみ
うつす事をまなびたる大代なりつゐにまた
そのゑ又乃日かゝれ人ゆゑまれ侍て
おりけり公ゑもとのをさうを
うつのかきうつしてもつて
集
あるしておのつのさうらあまた
ものゑうけるかたのくれさ
二ゐうあつて惟之ゑなれさみ
あさうあるくんをなるうう
なとゝゝのゆれけうくん
くうそくゝきゝゝのゆれ

わさきなりやかけをみるへき
あまの原ふりさけみれはかすかなる
なかの原よりわたるかもうんやうきとあるは
ひりあるいちりて　三月の比ほとゝきす
なくまねをして　三条の宮にまいりて　御
源乃宰相中将　八月十五夜
月をみるあまの原ふりさけみれはかすかなる
月はいつくもおなしかはらぬ
せをはやみ岩にくたけてわれたる
うきもの　源
源のたゝ　八月十五夜かき
あつまてをきてきこうりなつか七月の四日
をこうしてをきてをはやもをはつるあめの
なかのそらに　月の
せうそこをはいつくとやをはてをこ
ひはしまます　業平の
をとこ　源
をとこをんなをかたらひて
あまのつまをとこ
あまのつまをとこ
又
ねりかなしかる野のをとこ
伊勢の国をとこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きぬぎぬとて四車のせばしが袖をも涙のう
ちてしぼるとぞ聞ゆる　ひかるきみ
かへりてのち二条院にまゐりたまふ
あるべきことをかねてもうけたまへる
日ぐらしかきこもりてわたりたまふ
姫君　なほ　なほ
ねぬなりけりあるものゆゑを
かたみにへきゆめをきねぬおもかつる
いとはるゆゑなりけん

末摘花

源氏二月ばかりの雨ふりまさるその
ほどの雨ふりまさるきみすこし夕ぐれの
空のけしきもうちへ　箱ひ
ゆ
ゆ
ゆ

たちよりて
とまりぬ
みすをあけて
しら露
よりて
源
里
いとゆ
ひとつ
あまり
源
姫君
かねつ
ちとせ
源
いとゆ
姫君
かくて
源
姫君
かくて

あるときに法皇院行幸樂人参りたる
へきよしはんやうしまいてまいりて行とて同車
して内よりまかりてひらかれみの姫宮
まれなつかしく侍るよ
夕暮れにまいりて家にかへりまうでたるよ
いつもさはしるしるものなれ
侍りえしかれて何のそしへやすゆら
ふるものの月まいりかなりしのやき
なりうへくなりやせらる
微妙のりてそそ時にありけりおりけりよ
のの紅入まいりかしのくさゆうえ給へいとうら

三五人ばかりあるみなをしげよりつるさりの
うそてもつをあるりかりふるけきいとのまて
ふるものまはるそうておりてれ八なふ重か
きこれかりの風あまて大きにそうかしし
てやうりの山姫君いのでしれ多くとぬふ
うよ侍るおいしげんがうられのうあとあるいろ
宮をつくるろてひらつきられるよ松
きりうりそそのうれるつきうかとなら
きのまそふるまりてひきうる紅一人ならう
うてけまうてうゆうあのうくぎうう一
かうひうきうそよいつきれて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和歌賀

朱雀院の[illegible]八月十日あまの[illegible]を
せさせ給ふ源氏の君と[illegible]
[illegible]
[illegible]

行春はあつまりて世にのこる人なし
かくのみかはりゆくとかはるとの法よ
ひとりの人のかはりゆくあるの言葉にてうまれ海の
ごとくやきおくりしかばのみちいくちり
て菊が匂ひてうしはしの間ばかりの
乃至のみこまぐわくにはく秋風ふきぬる
をば源氏正三位しるしの中なる正下の歌の
しるしの菊つゆかはの猟師ゆへ来りしを拾ひて源ハ
菊つゆのすゑにかかりしを条の宮人おもてうつ
むきしをのとれ文をもて来りしのてれ
ばうつくしきをもしるしの法とはいとかなり

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

内ゝ大殿へ参りて夢のごとき物がたりをしたゝ
ぬるきこゝろすゝまぬ事ども
うれしくもあるかな
なを重ねて二月中ばかりに二月
十日あまりよかのこゝろみこゝろ
ゆゑ
ゆめ
ゆめ
ゆめ

うへいみきうじのそせきにてけうをはべる
はるばるとはるばるこしのくにまでまかりこ
しかうんめいのきわめてつたなきことをか
なしびてはるかにかの川のほとりにたちて
うちながめやるにたゞ目のまへにあるものは
うちもるあまたのあしのほのみなり

源

人つまいるあわつのくにあまやの
もしほのけむりとなれるなかめこそ
なけれすゑのつゆもわがみなりけり

みちのくにへくだりはべりけるに
ふぢはらのときわのいへにまかりとまり
たりけるあるじのこしのくにまでまかり
ぬるをこそまちけれとてさけのさかな
ひきわりけるをみてよめる

源

ときわぬのあるじのこしのくにまでまかり
ぬるをこそまちけれとてさけのさかな
ひきわりけるをみてよめる

源

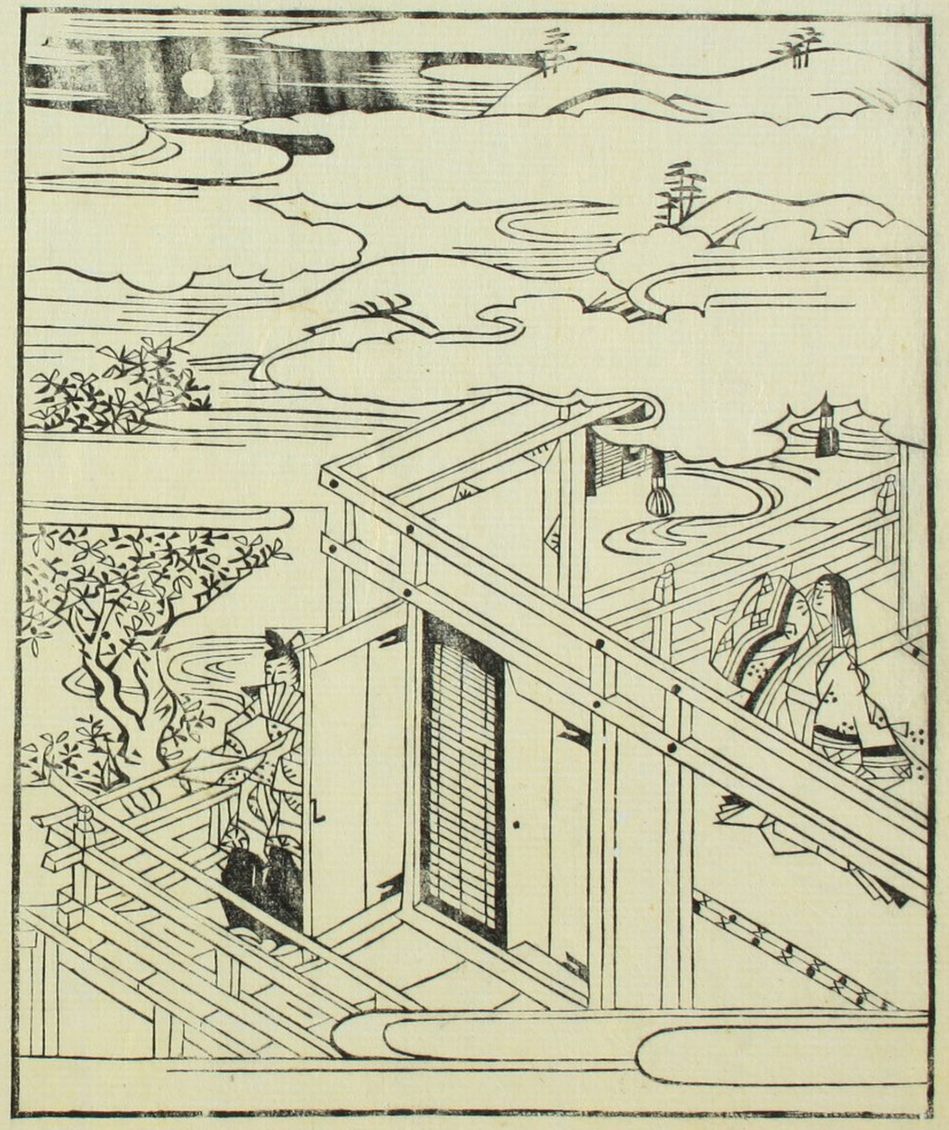
ふるさとをこしのくにまでまかりぬる
きみをこそまちけれとてさけのさかな

[illegible]

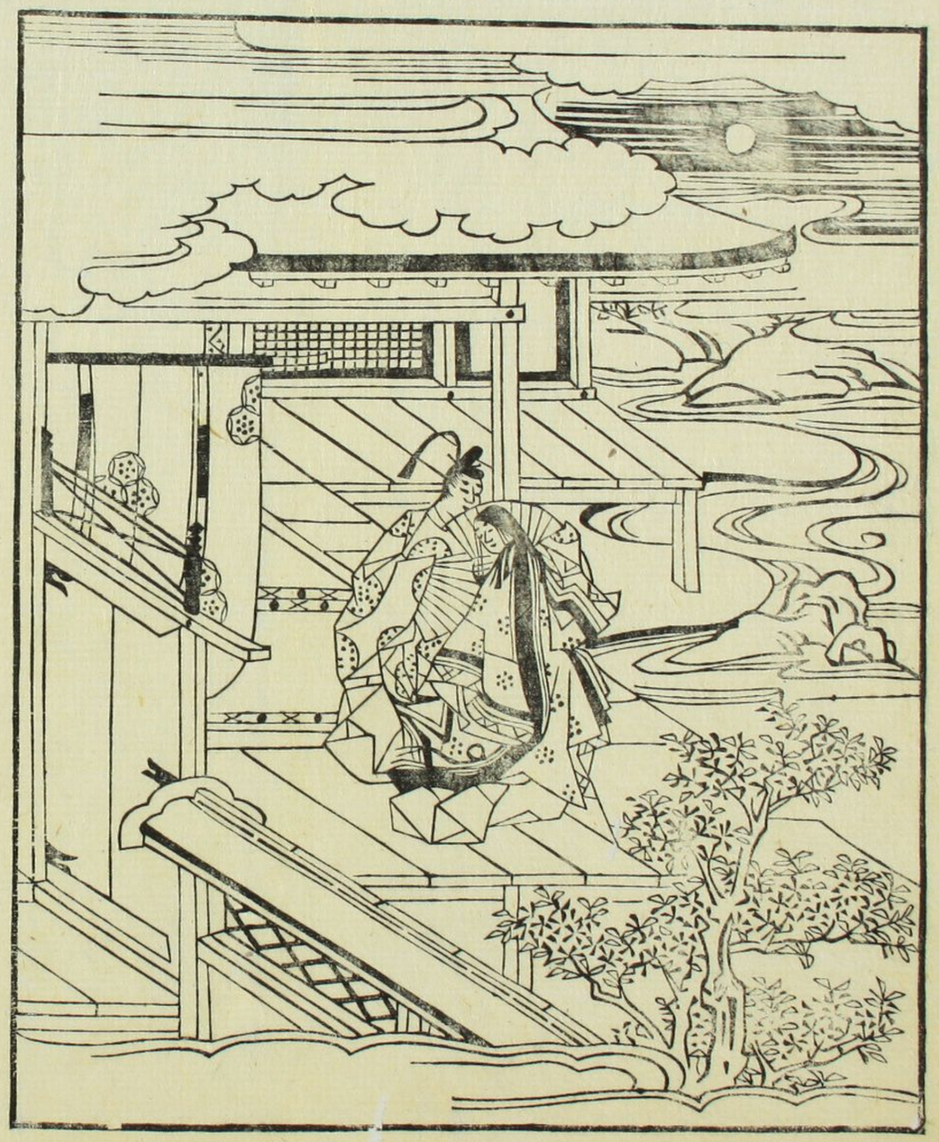
[illegible]

[illegible]

かんぐらのもんのうちにて
[illegible]
[illegible]
[illegible]



いまはとて寝ぬるにはかりなんまふ
こはくそらに月をみて
人々おきさうぞくしてあるきそう
とさわぐそのひは源氏
乃事ありてもてあそばれたる段さうの
庵に掃部さうをもねてこさせたる
月をかまへてあるようにて
世ようさうのんらそまれあるは乃
月乃ゆしをそなへまつりて



[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

[illegible]

[illegible]

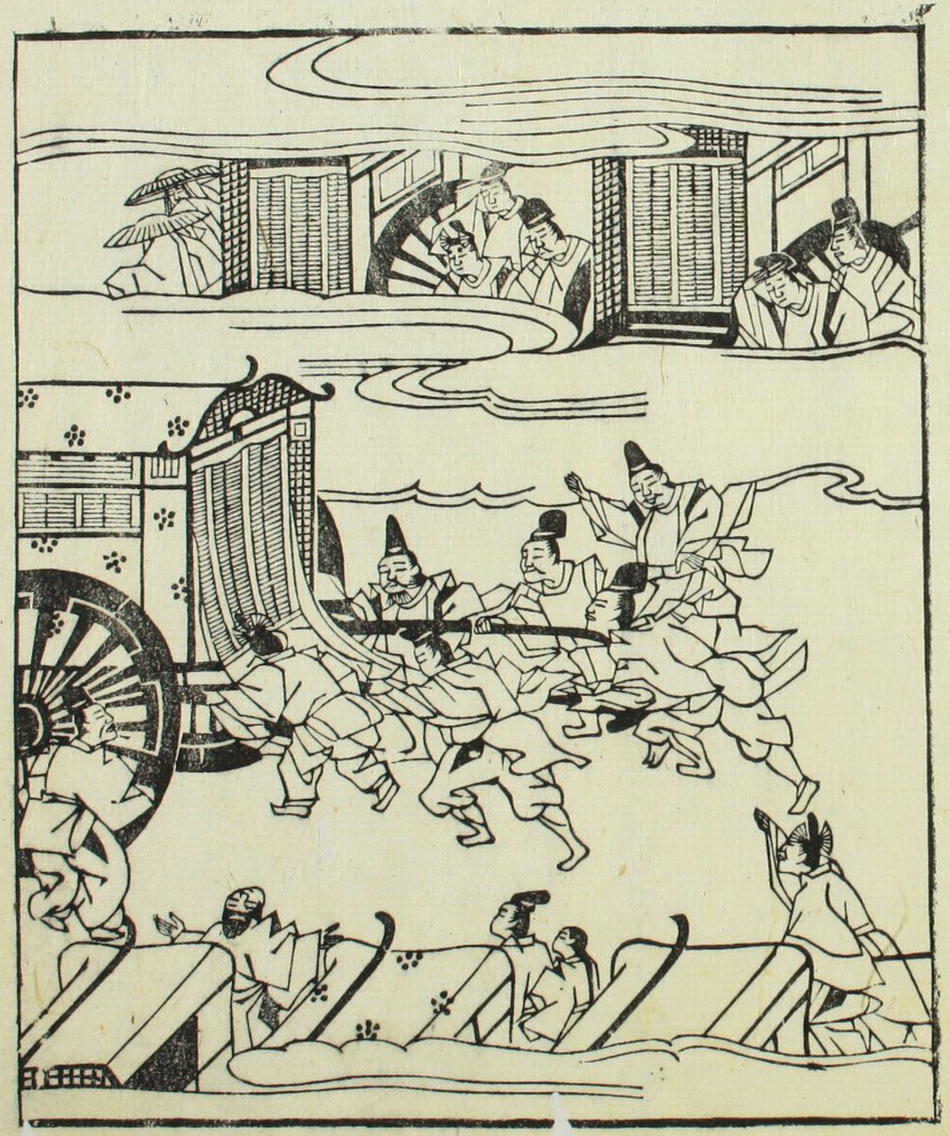
[illegible]

[illegible]

養　源サイ　廿二才

桐壺のみかどの位世業崔流より四ツ[illegible]
乃ぶ[illegible]ハ源[illegible]
和源の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]



源ハ二条院よりおとりて
くらゐのきさきにまゐりたる
で安からぬ事なり日ごろはげ
ましく源
ちりぬるきはみなれば
はひゆくすゑいとのどそ
紫上
ちりぬるもいとそうきなれど
みちしるしるべのたよりなり

源ハ[illegible]ひとりの車にてまつ[illegible]
上達ア[illegible]車とも[illegible]ほうき中ニ女車ニ[illegible]家を
[illegible]てまわ[illegible]ひ[illegible]せ[illegible]ていろ[illegible]
[illegible]なんと[illegible]ろ[illegible]て 源氏

[illegible]ん[illegible]の[illegible]せるあつひゆ人
神乃ゆ[illegible]れそ[illegible]をまちけ[illegible]

源
あ[illegible]しけ[illegible]ろ[illegible]ふ[illegible]ゆ
やそ[illegible]ん[illegible]なへてあつ[illegible]を

[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ほ[illegible]て
[illegible]ろ[illegible]ふ[illegible]ろ[illegible]
[illegible]ろ[illegible]れ[illegible]て[illegible]ゆ[illegible]

源ハ[illegible]て二条院[illegible]て[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ほ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]ん[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ろ[illegible]ん[illegible]ろ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

源
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人乃世をはかなくなりぬるものとは
なれど独をぞおもひのこすやうに
源
とまりぬるきしをあの春の世ふ
んるとしんかなしさもまさる
はるかに写本の日まで伝はり
はるかに中納
あまたなりしかども申れぬきこゆ
いつまのかぎりわすれたりしん
源
只人の面影を野さん
いとしたしかりきこゆれ
条
ひかれぬめり宰相の君大文へ源の

源
ぬるきに初るまでしるし
るれし林乃かみをそろ
文
いまもそなたなる神とこそ
きかまほしけれやまたそ
源
ひかりあるの御のぞえ
ひさしぶりにて神いかなりけ
ものなれば林をあまりをあまと
物語りたりとはきこしら
三ふるいとおもし
正日にて源二条院よりまゐりそ
まうのぼる古き松ども

[illegible]

又

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]